

麻しん風しん第2期接種率向上の取り組み事例 - 3

## 第2期麻しん風しん予防接種率向上に向けての取り組み

倉敷市保健所保健課

はじめに

倉敷市は人口478,507人(平成20年5月末)、出生数は4,701人(平成19年度)の中核市で、予防接種は医療機関全面委託による個別接種で実施している。予防接種の担当窓口は保健所保健課感染症係(結核、感染症、HIV、予防接種、肝炎事業担当)である。

当課において、接種率アップを最重点課題として数値目標を掲げ、感染症係では、特にまだまだ周知徹底が図られていない2期MRワクチンの接種率アップを図るべく、普及啓発に取り組んだ。

具体的な取り組み内容

平成18年度、倉敷市における2期の接種率は81.5%であった。今年度の目標をまずは、85%と定め取り組んだ。

平成18年度は、MRワクチンの2期接種勧奨は幼稚園、保育園を通じて保護者あての接種勧奨の文書とポスター掲示が中心であった。それに加え、平成19年度には市教育委員会、市保育課との連携を図った。まず、就学時健康診断にターゲットをあてた。教育委員会主催の就学前健康診断説明会で保健師が麻しんとMRワクチン接種の必要性について小学校の養護教諭、教務主任に対して話をした。この話を受け、各小学校養護教諭は、就学時健康診断時、保護者に対して接種勧奨をした。

次に行ったのが、市内幼稚園・保育園職員への周知徹底である。すべての公立・私立幼稚園の園長会、市立・民間保育園の園長会、主任会へ保健師が出向き上記同様に話し、対象園児、保護者への接種勧奨を依頼した。

あわせて対象児の保護者に対しては、オリジナルのPRチラシで周知を図った。

また医師会は、教育委員会に対して、接種証明書付きの接種勧奨文書の配布依頼をした。学校は、就学時健康診断時、未接種者に対し、早期接種を呼びかけ、一日入学時に接種証明を提出させた。さらに一日入学時に提出しなかった未接種児に関しては、3月31日までに接種した上で、入学時に持参するように周知させた。この接種証明書に係る費用は、医師会との申し合わせにより無料とされ、このことが一層強力な接種勧奨手段となった。

具体的な詳細な取り組み内容をまとめると以下のとおりである。

月	内容
4	市内幼稚園・保育園を通じて保護者あて案内文書を配布
5	予防接種実施医療機関、市内幼稚園、保育園へ市オリジナル作成のポスター配布
9	就学時健診説明会で麻しんとMRワクチン接種について説明
10～11	就学時健康診断にて養護教諭より保護者に対して接種勧奨
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルのPRチラシ作成し、市内幼稚園・保育園を通じて配布</li> <li>・市内全幼稚園・保育園の園長会、主任会で麻しんとMRワクチンについて説明と接種勧奨依頼</li> <li>・小学校一日入学にて未接種者の保護者に対し、再度接種勧奨</li> </ul>
3	市内幼稚園・保育園を通じ、保護者あて最終接種勧奨

おわりに

保健所の予防接種担当係は一丸となってMR接種率向上のために、一連の取り組みを実施してきた。その結果、2期の接種率95.4%と、当初の目標値を大幅に上回る接種率を達成することができた。これは、保健所のみならず、医師会、教育委員会、保育課それぞれがMRワクチン接種率アップのため尽力し、連携して取り組みを展開できたからに他ならない。

今後もさらに接種率向上のため、普及啓発、接種勧奨活動を強化していきたいと考えている。

補)ポスター、チラシは<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/sokuhoumeas/0827p.pdf>、<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/sokuhoumeas/0827t.pdf>でご覧いただけます。